

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1990100099
法人名	(有)保泉商事
事業所名	グループホーム花みずき
所在地	〒 409-3866 山梨県中巨摩郡昭和町西条101-1 電話番号 055-268-0055

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年10月23日	評価確定日	平成20年12月3日

## 【情報提供票より】平成20年10月8日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成19年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	2人 非常勤 6人 常勤換算 3.3人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り	
	1	階建ての	0 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円
敷金	■有( 100,000 ) □無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有( ) 有りの場合 ■無 償却の有無		□有 □無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 0 円		

## (4) 利用者の概要 平成20年10月8日 現在

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	77 歳	最高	87 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石原医院、斉木歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年11月1日

交通量の多い国道からすぐ入ったところに立地しているが、周囲には、のどかなブドウ畑が広がる閑静な場所に、この事業所はある。平屋建ての明るい建物で、居室は、すべて南向きの日当たりのよい空間である。開設して、まだ1年ほどであるが、利用者も職員も、みな穏やかな表情で暮らしており、安定した質のサービスが、提供されていることが分かる。利用者同士の会話も多く、職員も、その輪に自然に溶け込み、あたたかい関係が築かれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 開所して初めての評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 初めての自己評価に、職員全員で話し合いを行って取り組んだ。自己評価を行うことで、日々のサービスを振り返ることができ、職員の意識の相互理解もできた。外部評価の結果を、さらにサービス向上に活かしていきたいと考えている。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、これまでに2度開催し、事業所の運営の報告や、今後の課題について検討していただいた。開設前にも行われ、防災対策等についても意見をいただくことができた。現在は、様々な理由により、2か月に1度の開催には至っておらず、今後は定期的に開催したいと考えている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置しているが、苦情はまだ寄せられていない。家族の訪問は多く、その際に話をし、要望などを伺うようにしている。身体介護に対しての要望があり、要望に沿えるよう対応している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣近所とは顔なじみになり、非常の際の協力など理解をいただいている。自治会には加入しているが、行事などの参加はまだしておらず、今後参加していきたいと考えている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム花みずき

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつでも、どこでも、誰にでも」を理念に掲げ、地域の中で、温かい介護サービスを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を廊下に掲示し、職員や利用者、来訪した家族にも、分かりやすく明示している。また、会議など、職員間で理念を共有する機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しているものの、地域活動への参加には至っていない。自治会の年間行事等を自治会より聞いているので、今後は、地域の行事や防災訓練等に参加していきたい。	○	利用者が参加できそうな行事から、徐々に地域との付き合いを始め、地域の一員として溶け込んでいくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開所して初めての自己評価に、職員全員で話し合いを行って取り組んだ。自己評価を行うことで、日々のサービスを振り返ることができ、職員の意識の相互理解もできた。外部評価の結果をさらにサービス向上に活かしていきたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、2回、運営推進会議を開催した。運営について、報告や指導をいただいたりした。しかし、なかなか、それぞれに都合が合わず、2か月に1度の開催には至っていない。	○	開設して1年という、これからの事業所にとって、運営推進会議を開いて広く意見を求めていくことは、とても重要であると思われる。委員の方々にも協力を仰ぎ、運営推進会議を、定期的を開催していくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設前から市町村担当者には、よく相談に乗っていただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者一人ひとりの日頃の様子を手紙にし、写真も添えて、家族に送っている。この手紙を楽しみにして下さる家族も多い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、苦情はまだ寄せられていない。家族の訪問は多く、その際に話をし、要望などを伺うようにしている。家族会はまだ設けてない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職時には、利用者には、やわらかく伝えるようにし、ダメージを少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の職務にゆとりがなく、まだ内外の研修には至っていないが、今後できるだけ研修の機会を作りたいと考えている。	○	人材確保を進めるなどして、勉強をして向上したいという熱意のある職員のためにも、研修の機会の確保に取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会には加入しているが、同業者との交流には至っていない。	○	開設して1年なので、今後に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に事業所に来て、お茶を飲んだりしてから利用開始するということもあるが、家族が決めて利用開始することが多い。	○	利用者が安心してサービス開始できるよう、家族にも働きかけていってほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士の会話が早く、職員もその輪に自然となじみ、あたたかい関係が築かれている。利用者から教えられることも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調によって日々利用者の様子は違うので、一人ひとりの状態に合わせて、無理強いせず、ゆっくり見守るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネージャーが作成しているが、職員との話し合いを行い、意見を反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者になんらかの変化があった時は、職員の意見をミーティングなどで伝え、その都度、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者のデイケアでの経験を活かし、利用者の機能訓練を行うなどしている。家族が、都合がつかない時は、受診支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診がある。月に2回のペースなので、細かい体調の変化にも対応していただくことができている。その間、体調に変化があれば受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として、ターミナルケアは行わないという方針である。重度化した場合や医療が必要になった時は、その都度、家族と話し合いを行っていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉つかいや言葉かけには、十分配慮している。利用者の尊厳を大切に、個を尊重した対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、体調の変化を見極め、一人ひとりに合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が、最も喜ぶことのひとつとして捉え、献立作りも利用者の好みに合わせつつ、健康に気をつけたものになるよう努力している。調理や準備など、できることは一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の時間帯に、一日おきの入浴となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵画や川柳をしたり、新聞を読んだり、生活暦を活かした生活をしている。庭では畑を作り、作物を育てたり、草取りをし、多くの利用者が張り切って取り組んでいる。月1回程度、外食をしている。春には温泉に出かけ、利用者もとても喜んでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	表は幹線道路が近いが、裏手はブドウ畑が広がり、閑静な場所となっている。日常的に散歩を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は見守りを大切にし、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練をしている。備蓄食料も用意している。近所の理解も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリーを考えた献立となっているが、利用者の肥満等があり、気がかりとなっているところである。現在は栄養士に相談しておらず、今後、献立作りについて、相談する機関を探したいと考えている。水分は、適切な量が取れるようチェックしている。	○	利用者の健康面に配慮した献立作りをしていくために、栄養士からの適切なアドバイスが受けられるよう、検討を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、程よい広さで、明るく居心地がよい。利用者も、自然とこの空間に集まってくることが多い。壁面には、季節の花や利用者の描いた絵画などが、さりげなく飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のある和室と、洋室の2種類になっていて、好みの部屋を選んでいる。居室には、ベッドやダンスなど、なじみの家具が持ち込まれており、利用者が居心地よく過ごせるようになっている。		